

ともいき 共生

2014年11月

Vol.01

社会福祉法人
札幌慈啓会 広報誌

法人広報誌「共生」の 創刊にあたって



社会福祉法人 札幌慈啓会

理事長 太田 眞 琴

法人広報誌の創刊号の発行にあたって一言ご挨拶を申し上げます。

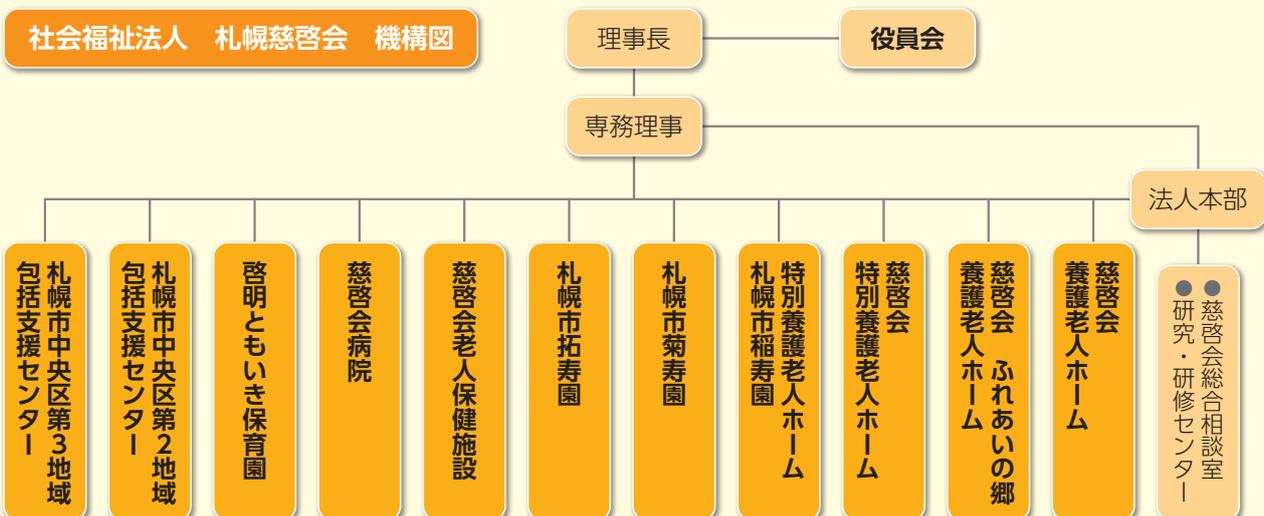
当法人では、広報活動として各施設を紹介するパンフレットや法人のホームページ、各施設が独自に発行しております。また、広報誌等で行っており、財務状況等についても札幌市のホームページ等で開示されている状況にあります。

この度の法人広報誌は、当法人で行っている様々な事業を地域の皆様方により良くご理解していただきたく創刊号の発行とさせていただきます。

内容としては、法人が新たに事業展開することとなりました「啓明ともいき保育園」の理念・方針・目標等に加え職員紹介や施設紹介等を掲載させていただきます。その他にも地域貢献の一つとして福祉避難場所の設置についてもご紹介させていただきます。

この広報誌は年一回の発行となりますが、内容も皆様方に興味を持ってご覧になっていただけるよう充実した内容にしていきたく考えておりますので、今後とも当法人の運営に際しましてご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人 札幌慈啓会 機構図



啓明ともいき保育園設立

札幌慈啓会では、待機児童の解消のため札幌市の基準に沿った安全で安心できる保育園の整備を進めておりましたが、予定どおり10月末に完了いたしました。2014年12月1日開園に向けて、ベテラン職員が受入準備をしておりますので、ぜひ、ご入園ご利用いただけますようお願いいたします。

保育理念

啓明ともいき保育園は、経営法人である札幌慈啓会の“共生(ともいき)”の理念で運営してまいります。

“ともいき”とは、地域・自然と共に生きるだけでなく、「いのちのつながり」をさし、保育の中で人と人のつながりを大切にし、明るく・正しく・仲よくを基本として、ともに思いやり、育ち合うことを目指します。

保育方針

- 子どもが安心して過ごせるように環境を整え、健全な心身の発達を図ります。
- 遊びや集団生活を通して、よく考え、思いやりや協調性を育てます。
- 保護者や地域と連携を深め、子育ての楽しさを伝えます。

保育目標

- 元気で明るい生き生きとした子どもを育てる
 - ・健康、安全な生活に必要な基本的な生活習慣を養い、生活リズムを整える
 - ・身体を動かして楽しく遊び、健康な心とからだをつくる
- 思いやりのある心ゆたかな子どもを育てる
 - ・人との関わりを通して、思いやりや優しい気持ちを育て、愛情や信頼関係を築いていく
- よく考え行動する心身ともにすこやかな子どもを育てる
 - ・いろいろな環境の中で友だちと関わりながら、生活に必要なことを身につけ、さまざまな遊びをつくりあげていく



【保育園のロゴ完成】

法人の職員及び家族から応募いただき、子どもの施設として親しみがわくものを選びました。これから園発行の印刷物等に使用していきます。



啓明ともいき保育園
園長 山本 美貴子

12月1日の開園を間近に控え、10月30日に建物の引き渡しが行われました。設計段階から係わりましたが、機能性と安全面に配慮した保育園が完成し、子どもたちが安心して過ごせる居心地のよい保育園の開園を目指して、準備を進めているところです。

室内は落ち着いた色調で統一され、子どもたちがゆったりくつろげる空間で構成されています。また、園内には木材を多く使用していることから木のぬくもりと温かい雰囲気、快適な生活の場となることでしょう。

多目的室の隣りにある園文庫は、壁面に5色のガラスブロックを採用し、窓から差し込む豊かな色調が落ち着いた空間となり、子どもたちはもちろんのこと、親子で絵本を楽しんでいただけたらと思います。5色の色に込めた思いは、「優しく」「健やかに」「明るく」「仲良く」「学ぶ」で、保育する側の思いである保育理念と合致したものになっています。

園文庫の脇の階段を上ったところは、回廊式の廊下から日差しがたっぷり入る、明るい遊戯室になっています。プロジェクトやロールスクリーンが設置され、行事の時は大活躍してくれそうです。また、屋上園庭は保育室から直接出入りが可能で、夏はプールあそびなど汚れを気にせず遊ぶことができます。

子どもたちにとって素晴らしい環境が整いました。これからは、子どもたちの明るい未来と地域貢献のため、信頼される保育園をめざして職員一同努めてまいります。どうぞ、よろしくお願いいたします。



ホール



乳児クラスのお部屋



幼児クラスのお部屋

施設の概要

- 施設名 啓明ともいき保育園
- 場 所 〒064-0914 札幌市中央区南14条西18丁目6-5
- 開園予定日 平成26年12月1日(月)
- 定 員 90人/乳幼児併設(生後5か月から就学前まで)
- 開園時間 月曜日～土曜日 7時～18時
- 特別保育事業 延長保育(18時～19時)・一時保育
- 建物の構造 鉄筋コンクリート造2階建(冷暖房完備)
- 給 食 園で安全な食事を提供(アレルギー食対応可)

連絡先

社会福祉法人札幌慈啓会 啓明ともいき保育園
TEL 011-561-5151 E-mail : tomoiki@sapporojikeikai.or.jp



平成 25 年度 法人決算報告

(単位：千円)

貸借対照表

(平成 26 年 3 月 31 日現在)



資 産 の 部		負 債 の 部	
	当年度末		当年度末
流動資産	1,217,151	流動負債	714,263
現金預金	528,064	事業未払金	278,951
有価証券	10,000	その他の未払金	93
事業未収金	638,909	1年以内返済予定設備資金借入金	206,867
未収金	1,245	1年以内返済予定長期運営資金借入金	30,840
未収補助金	24,839	1年以内返済予定リース債務	18,244
未収収益	1,350	未払費用	26,286
医薬品	1,812	預り金	536
診療・療養費等材料	1,311	職員預り金	31,956
立替金	1,639	前受収益	54
前払金	666	仮受金	885
前払費用	7,085	賞与引当金	119,551
仮払金	201	その他の流動負債	
その他の流動資産	30	固定負債	2,148,753
固定資産	4,883,431	設備資金借入金	1,635,250
基本財産	3,954,113	長期運営資金借入金	55,490
土地	116,200	リース債務	49,421
建物	3,837,913	退職給付引当金	406,980
その他の固定資産	929,317	その他の固定負債	1,612
土地	20,100	負債の部合計	2,863,016
建物	351,792	純資産の部	
構築物	31,711	基本金	604,017
機械及び装置	27,966	国庫補助金等特別積立金	1,467,496
車輛運搬具	5,526	その他の積立金	442,102
器具及び備品	110,423	施設整備等積立金	81,297
建設仮勘定	14,190	人件費積立金	21,784
権利	106	その他の積立金	339,021
ソフトウェア	1,306	次期繰越活動増減差額	723,950
投資有価証券	42	(うち当期活動増減差額)	-93,386
長期貸付金	6,440		
措置施設繰越特定資産	17,501		
施設整備等積立資産	32,954		
人件費積立資産	7,726		
その他積立資産	37,443		
その他の固定資産	264,090	純資産の部合計	3,237,566
資産の部合計	6,100,582	負債及び純資産の部合計	6,100,582

資金収支計算書

(自)平成 25 年 4 月 1 日 (至)平成 26 年 3 月 31 日 (単位：千円)

動 定 科 目		金 額
事業活動による収支	収入	
	介護保険事業収入	1,931,289
	老人福祉事業収入	582,385
	医療事業収入	1,751,369
	借入金利息補助金収入	1,931
	経常経費寄附金収入	7,257
	受取利息配当金収入	208
	その他の収入	20,573
	事業活動収入計(1)	4,295,012
	支出	
人件費支出	2,639,145	
事業費支出	720,699	
事務費支出	520,489	
利用者負担軽減額	50,679	
支払利息支出	34,848	
事業活動支出計(2)	3,965,860	
経常活動資金収支差額(3) = (1) - (2)	329,152	
施設整備等による収支	収入	
	施設整備等補助金収入	7,830
	施設整備等収入計(4)	7,830
	支出	
	設備資金借入金元金償還支出	209,924
固定資産取得支出	105,037	
ファイナンス・リース債務返済支出	15,826	
施設整備等支出計(5)	330,787	
施設整備等資金収支差額(6) = (4) - (5)	-322,957	
その他の活動による収支	収入	
	長期貸付金回収収入	160
	積立資産取崩収入	1,852
	事業区分間繰入金収入	0
	その他の活動収入計(7)	2,012
	支出	
	長期運営資金借入金元金償還支出	32,030
	長期貸付金支出	150
	積立資産支出	6,600
	事業区分間繰入金支出	0
その他の活動による支出	120,490	
その他の活動支出計(8)	159,270	
その他の活動資金収支差額(9) = (7) - (8)	-157,259	
当期資金収支差額合計(10) = (3) + (6) + (9)	-151,064	
前期末支払資金残高(11)	1,029,454	
当期末支払資金残高(10) + (11)	878,390	

(注) 詳細については、法人ホームページ及び札幌市ホームページをご参照下さい。

事業活動収支計算書

(自)平成 25 年 4 月 1 日 (至)平成 26 年 3 月 31 日 (単位：千円)

動 定 科 目		法人合計
サービス活動増減の部	収益	
	介護保険事業収益	1,931,289
	老人福祉事業収益	582,385
	医療事業収益	1,751,369
	その他の事業収益	21,286
	経常経費寄附金収益	7,257
	サービス活動収益計(1)	4,293,585
	費用	
	人件費	2,761,359
	事業費	720,699
事務費	520,489	
利用者負担軽減額	50,679	
減価償却費	276,387	
国庫補助金等特別積立金取崩額	-83,919	
サービス活動費用計(2)	4,245,694	
サービス活動増減差額(3) = (1) - (2)	47,891	
サービス活動外増減の部	収益	
	借入金利息補助金収益	1,931
	受取利息配当金収益	208
	その他のサービス活動外収益	20,573
	サービス活動外収益計(4)	22,712
費用		
支払利息	34,848	
サービス活動外費用計(5)	34,848	
サービス活動外増減差額(6) = (4) - (5)	-12,135	
経常収支差額(7) = (3) + (6)	35,755	
特別増減の部	収益	
	施設整備等補助金収益	7,830
	事業区分間繰入金収益	0
	特別費用計(8)	7,830
	費用	
	固定資産売却損・処分損	3,902
	国庫補助金等特別積立金積立額	7,830
	事業区分間繰入金費用	0
	その他の特別損失	120,490
	特別費用計(9)	132,222
特別増減差額(10) = (8) - (9)	-124,392	
当期活動増減差額合計(11) = (7) + (10)	-88,637	
前期繰越活動増減差額(12)	817,336	
当期末繰越活動増減差額(13) = (11) + (12)	728,699	
繰越活動増減差額の部	基本金取崩額(14)	
	その他の積立金取崩額(15)	1,852
	その他の積立金積立額(16)	6,600
	次期繰越活動増減差額(17) = (13) + (14) + (15) - (16)	723,950

福祉避難場所になりました



慈啓会特別養護老人ホームが、平成24年10月より中央区と協議を進めていた、「札幌市中央区災害時要援護者支援ネットワークに関する協定」を平成26年1月31日に締結いたしました。

これは、大災害時の収容避難場所での生活が困難な要援護者の避難支援活動を円滑に行うための「福祉避難場所」として、施設の機能や人材を地域に提供するための協定です。

「福祉避難場所」とは、大規模な地震、風水害等の自然災害により家屋等が被害を受けた場合に、収容避難場所における生活が困難な高齢者や障がい者などの避難支援活動を円滑に行うために社会福祉施設等に設置する避難場所です。

(札幌市ホームページより)

中央区内では慈啓会特別養護老人ホームをはじめ、慈啓会老人保健施設のほか、5ヶ所の特養・老健施設が協力を行っています。

この協定を受け、10月17日に札幌市、中央区、南円山会館（地域の避難所）、慈啓会特別養護老人ホームの四者が連携し、実際に災害発生後に福祉避難場所の設置から、要援護者の受け入れに至るまでの一連の流れを確認するための「福祉避難場所設置・運営訓練」を実施いたしました。

訓練にあたっては、市や区の担当者をはじめ南円山地区連合町内会役員の皆様のご協力を受け、協定を締結している他施設の担当者も多数見学に来所されるなか、緊張感を持って取り組みました。

当施設からも介護職員、看護職員、相談員が参加。各所との連絡調整、施設内外の被害状況の確認、受け入れスペースや物品

の確保、要援護者の車両によるお迎えや到着後の健康状態のチェックなど、各役割を分担してスムーズに設置から受け入れまで行うことができました。

ダンボール箱によるプライバシー確保のための衝立製作のアイデアは各施設でも応用できるとの評価もいただき、また、区からの支援物資（毛布や水、食料など）も滞りなく到着し、訓練は大成功のうちに終了いたしました。

この経験をふまえ、自然災害の続く昨今、常に油断することなく備え、そして地域に対しても社会的貢献を行えるよう、これからも取り組みを続けます。

(慈啓会特別養護老人ホーム 蝦名副施設長)





社会福祉法人 札幌慈啓会 奨学資金貸付制度

目的

当法人の業務に密接に関係のある3職種(介護・看護・保育)については、離職率も高く関係施設では人材の確保が課題となっております。また、学生の介護実習については、例年積極的に受け入れを行っておりますが、卒業後、当法人への雇用にはなかなか繋がっていない状況にあります。

そこで、3職種の資格取得に係る修学期間について、法人が奨学資金貸付制度を設けて学生を支援し、卒業後は法人の施設で一定期間勤務してもらうことで、奨学金の返済義務を免除しようとするものです。

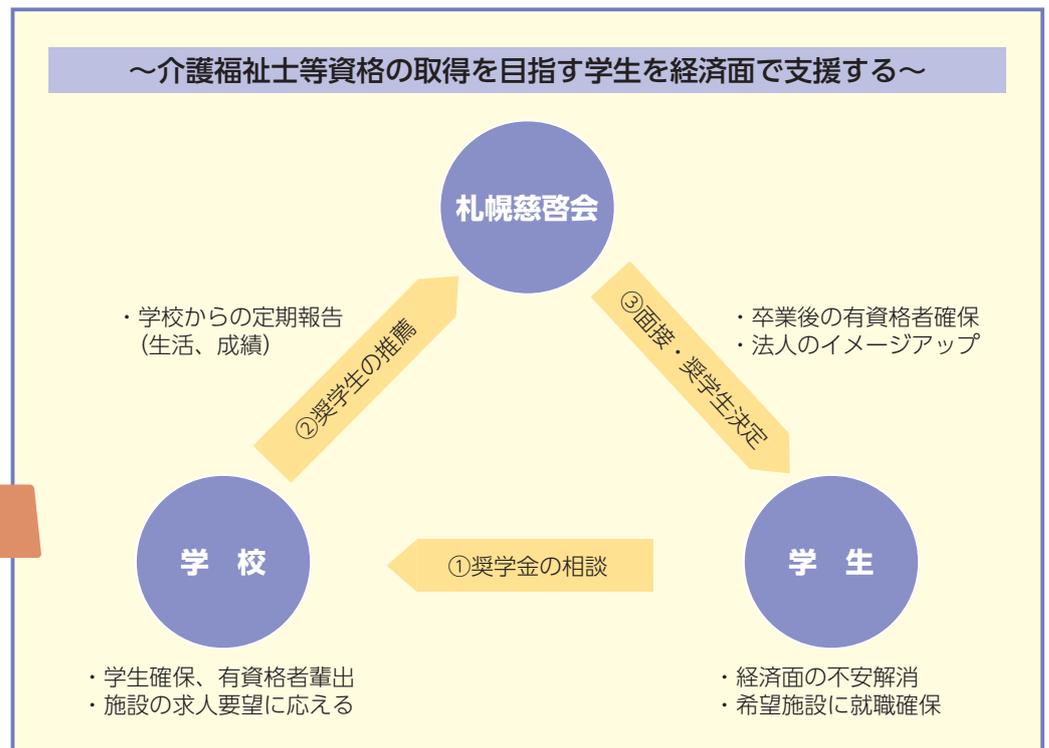
対象学生

法人が指定する学校で、学校から推薦を受けた介護福祉士、看護師、保育士資格の取得を目指す学生

奨学金額

最長3年(月額3万円、卒業後貸付期間と同期間法人勤務で返済義務を免除)

制度のイメージ



財源

奨学金制度は法人として実施し、これに要する資金を毎年用意します。

対象者数

年間6名程度を対象とし、必要に応じて対象人数の変更を行います。
(6名×360千円=2,160千円)

慈啓会病院

生活習慣病は、 早期発見・早期治療が大切！

生活習慣病のひとつである糖尿病患者は、将来、認知症になる可能性が高まるなど、様々な合併症を引き起こす場合があります。重症化するほどに治療や改善も難しくなるため、初期の段階で手をうつことが肝心です。

慈啓会病院では、早期発見のために、健康診断や人間ドックによる検査に力を入れています。手軽な日帰りの検査から、徹底的にチェックする1泊2日の人間



ドックまで、項目や所要時間を選べるのが特長の一つで、受診しやすい検診料も、早期発見できる患者様を少しでも多く増やしたいと考えているためです。

また、生活習慣病は**運動と食事の改善がすべて**です。この病気の治療は日々の積み重ねが左右するので、慈啓会病院では自宅の食事の献立を分析する管理栄養士の食事指導、体の痛みや疾患を踏まえた理学療法士による運動指導、薬を安心して服薬していただくための薬剤師の薬剤指導など、各々にふさわしいプログラムを組んで治療し、医師の治療だけでカバーできない領域は、「チーム医療」で支援しています。

「かけがえのない生活のために1年間に1度の健康チェックを！」まずは、検査・受診することをすすめます。

(お問い合わせ先 011・561・8292)

施設紹介

慈啓会特別養護老人ホーム 認知症対応型デイサービスの紹介

認知症とはいろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなることでさまざまな障害が起こり、生活をするうえで支障が出ている状態をいいます。認知症になることで一人で暮らす人も家族と暮らす人も生活を続ける上でさまざまな支障・問題を抱えることとなります。

認知症対応型デイサービスでは通所先で専門的なケアを提供することで、認知症の方が可能な限り自分の力を発揮しながら生活できるよう機能維持を図る、または一緒に暮らす家族と力を合わせて生活が継続できるようにケアの困りごとや心配ごとの相談にのったり、家族へ休息を提供するなどの役割を果たしています。

現在、中央区内には4つの認知症対応型デイサービスがありますが、当法人の場合、1日あたり利用定員12名で要支援1、



要介護5までの方が、月々土曜日までご利用いただけます。担当する職員を含め少人数ですので、利用者さんのリズムに合わせた関わりとプログラム内容が特長になります。第2の自宅としての役割が果たせることを目標に職員は日々努力しております。見学などご興味のある方は是非お問い合わせ下さい。お待ちしております。

(お問い合わせ先 011・561・8291)

研修生 体験記

実習での 学び



栗山町立北海道
介護福祉学校2年
坂谷内 奈美

2年次の介護実習を貴施設にて7週間学ばせて頂きました。実習では積極的に何事にもチャレンジし、多くの学びを得たと思います。利用者様の介助場面に立ち会わせて頂いた際、私の

質問に詳しく答えて頂き、介助のご指導を丁寧にご教えて頂きました。また、利用者様との関わり方や笑顔、尊厳を守ることの大切さなど、介護福祉士にとって必要な事を学ばせて頂きました。ケアプランを立てる際には多職種の方々にもご協力頂き、講義で学んでいた連携の大切さを改めて学ぶことができました。また、スポーツ大会やボランティアの方々による紙芝居や人形劇、演奏会などのイベントに実習生も参加させて頂き、利用者様と一緒にとても楽しいひとときを過ごすことができました。私達にとって実習中は大変な毎日である中、利用者様の楽しそうな様子を見ると、改めてやりがいを感じられ、とても心に残る思い出となりました。普段、あまり表情を変えられない利用者様が笑ったり、涙を流したり、私が実習最終日に声をかけた時の利用者様の表情は今でも忘れられません。この時の気持ちややりがいを決して忘れずにいたいと思います。

最後に、職員の皆さんには様々なご助言、ご指導を頂き、とても多くの学びを得ることができました。この学びを、学校の講義などを通してさらに深め、来年度介護福祉士として働く職場で生かしていきたいと考えています。

札幌慈啓会の社会貢献事業の一部を紹介

社会福祉法人は、民間社会福祉事業の主たる担い手としての役割を果たしていくことはもとより、地域に潜在する福祉ニーズへの対応や、制度化されているサービスでは対応できないニーズへの対応等、社会福祉法人の有する高い公益性・福祉性に基づいた事業を積極的に展開することにより、株式会社等との違いを明確に示していきながら社会福祉法人の存在意義に対する広い理解を得ていくことが重要であると考えます。

当法人では、施設の利用料や医療費の一部減免を始め、研究研修支援、就労支援、緊急時支援、研究成果の還元その他、次のような事業も行っております。

〈木洩れびの家〉 札幌慈啓会の施設である病院の利用者及びご家族等の休憩・親睦の場、職員の研修の場の他、地域の方の会合や集会の場として利用いただいております。今後は、地域住民の趣味の会や子育てサロンの場としても利用いただきたいと考えております。



〈健康講座の開催〉 地域で生活される高齢者やその家族向けに、高齢者が注意すべき病気や生活上の注意事項をテーマに健康講座を開催しております。今は「来所型講座」が主ですが、これからは地域の会館、まちづくりセンターやマンション集会所などへ出向く「出前講座」に力を入れて、地域住民の健康、介護について情報発信を行っていきたくと考えております。

プログラムの内容例

- ①健康講座Ⅰ：医療的な知識の理解と予防が中心
- ②健康講座Ⅱ：医療的な知識と生活に必要な対応が中心
- ③健康講座Ⅲ：高齢者の健康と生活する場所が中心



表紙題字揮毫：「共生」

長谷川白羊(はせがわはくよう)作。
昭和4年札幌市生まれ。本名・悦以(よしつぐ)。法政大学法学部卒。
昭和35年山口子羊に師事。平成2年「札幌と書」(札幌市教育委員)に於いて「札幌の書家」百選に選ばれる。平成6年個展開催(於 札幌大丸藤井セントラル)

広報誌「共生」 2014年11月 Vol.01

編集発行／社会福祉法人札幌慈啓会

〔法人本部〕 〒064-0941 札幌市中央区旭ヶ丘5丁目6番51号
(慈啓会特別養護老人ホーム1F)

TEL 011-561-8291 FAX 011-561-8298

<http://www.sapporojikeikai.or.jp>